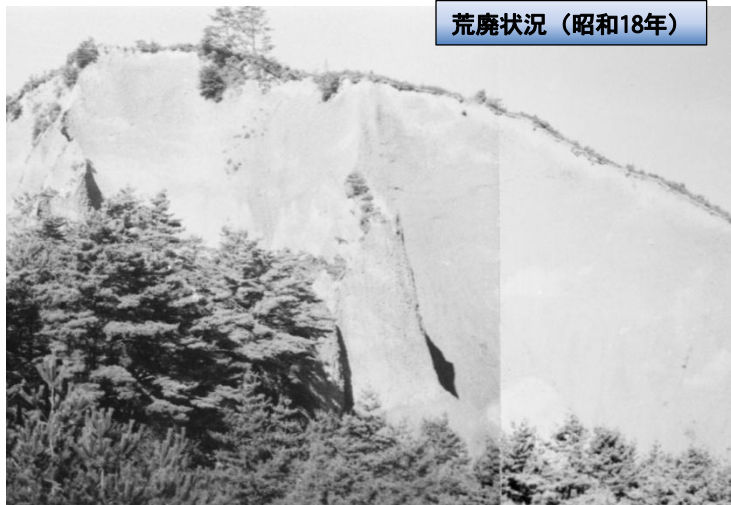


31 鬼が住むと恐れられた大荒廃地「九十九谷」の森林再生 長野県（喬木村）



荒廃状況（昭和18年）



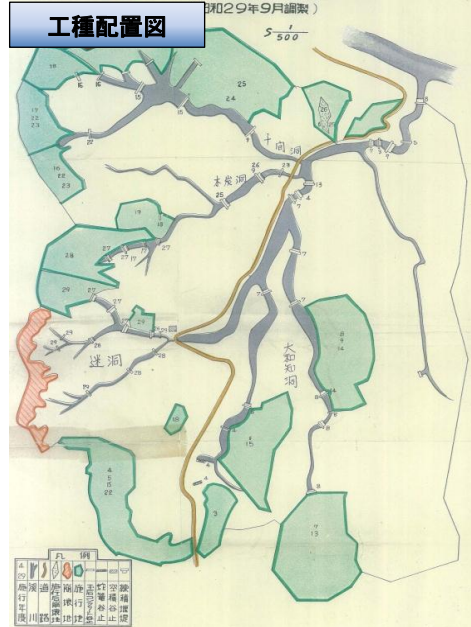
施工状況（昭和25年）



現在の状況



位置図



工種配置図

○所在場所

長野県下伊那喬木村大字小川字塩沢

○施設・工法の概要

堰堤46箇所（玉石コンクリート堰堤、石積谷止工など）
山腹工約43ha（法切工、山腹石積工、編柵工、積苗工、粗朶立工、植栽工など）

○解説

九十九谷は、古くより「鬼の住む九十九谷」と呼ばれ、谷が幾重にも入り乱れた地形を成す大荒廃地となっていました。昭和2年の大災害をきっかけに、地元先駆者が立ち上がり、周囲からの批判など辛酸を強いられながらも、昭和3年から事業が導入され、昭和29年までの営々27年にわたり、全国屈指の治山先進地として多種多様な工種・工法・工夫が取り入れられながら工事が実施されました。現在は、豊かな森林へ甦り、森林公園として住民の憩いの場・観光地として生まれ変わっています。